## 8 学校アクションプラン

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン - 1 -
重点項目	学習活動
重点課題	公開授業を実施することで、自らの研修・研究に積極的に取り組み、教科指導力
	や授業力の向上に努める。
現状	現行学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、ICT機器等の授業への
	有効活用を図ることで、より効果的で生徒が意欲的に学ぶことのできる指導方法を
	研究する必要がある。
達成目標	・自身の授業公開・・・年間一人1回以上の実施
	・公開授業実施後及び他の授業の参観後に相互評価・意見交換したことで、参考に
	なったと思える回数・・・年間2回以上
	・ICT等を活用した授業の実施回数・・・年間一人35回以上
方 策	・教員相互の公開授業を積極的に行い、教科指導力や授業の質を高めると同時に、
	ICT機器等の授業への効果的な導入を研究するなど、授業の工夫・改善を図る。
達成度	(授業を行っている教員数:43名)
	・公開授業の実施回数:41回、割合:95.3%(=41回/43名)
	・公開授業実施後及び他の授業の参観後に相互評価・意見交換したことで、参考に
	なったと思える回数:98回、割合:114%(=98回/(43名*2回))
	・ICT等を活用した授業の実施回数:一人あたり137回(=5896回/43名)
	公開授業の実施回数は目標を概ね達成しているが、全員が1回以上実施できるよ うな方策を考える必要がある。
	りな万束を考える必要がめる。   ICTを活用した授業の年間実施回数については、一人あたりの目標は達成して
	TCTを活用した技業の中間美地回数については、一人のたりの目標は達成して
	の特性や授業形態などが影響していると考えられる。
具体的な	タブレット端末を用いたスクリーンへの投影・グループ発表会の実施・パワーポ
取組状況	イントでのプレゼンテーション・ネットを利用した情報検索・デジタル教科書の使
-V()-12-1/ (DE	用等のICT機器の利用は多くの授業で実践された。ほとんどの教員がなんらかの
	形でICT機器を有効活用しており、この傾向は今後も続いていくと考えられる。
	公開授業の実施回数が目標を達成していないので、実施形態等の見直し
評価	Bを検討する必要があるかもしれない。授業へのICT機器の活用は目標を
	超えたが、全ての教員が何らかの形で活用できるように更に促していきた
	لا ،
次年度へ	・普段の授業で教科指導力を高めるために、公開授業の回数および参観者の人数を
向けての	もっと増やしたい。
課 題	・タブレットとプロジェクターとがうまくつながらないことが時々あり、授業の進
	度が遅れるなど、支障をきたした場面も見受けられた。

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 2 ―
重点項目	学習活動(自然科学コースの指導)
重点課題	自然科学コースの指導では校外研修や理数探究に積極的に取り組ませ、自然科学
	に対する興味や関心を高め、主体的に探究する態度を育成する。
現状	研修や実習のメニューは充実してきているが、生徒の学習の効果がより高まる
	よう、一つ一つの行事の内容を検証して改善する必要がある。
達成目標	校外研修や理数探究が学習や進路希望等に活かされたと思う生徒の割合
	…80%以上
方 策	・自然科学コースの専門科目や行事(筑波研修、理数探究の中間講評会、自然科学
	コース発表会など)の内容の充実を図る。
	・校内の自然科学コース担当外の先生方に校内のコース行事に参加してもらう。
	・高校と大学との連携を強化する。
達成度	出前講義 (2年・3年)97% (大変有意義53%、有意義44%)
	生徒実習(1年)100% (大変有意義94%、有意義 6%)
	筑波研修(2年)100% (大変有意義62%、有意義38%)
	出張講義 (1年)100% (大変有意義88%、有意義12%)
	理数探究中間講評会(2年)100% (大変有意義85%、有意義15%)
	科学技術体験講座(1年)100% (大変有意義88%、有意義12%)
具体的な	今年度は筑波研修の日程で変更があったが、概ね年度当初に計画した研修を
取組状況	予定通り実施する事が出来た。近年はデータサイエンス分野の学習内容に注目
4X/\L1\(\frac{1}{1}\)	が集まっており、地元の国公立大学においてデータサイエンスを学習する学部
	や学科が新設された。本校コースでも、富山大学理学部数理情報学プログラム
	と連携した講義(出前講義)、富山県立大学情報工学部データサイエンス学科
	と連携した講義や実習(出張講義、科学技術体験講座)を実施した。参加した
	生徒の事後アンケートも良好な結果となり、科学に対する興味や関心を高めると
	いう点は効果的な研修になった。次年度以降も継続的に導入を進めて行きたい。
	また今年度の筑波研修については昨年度までとは異なる日程で実施する事に
	なったが、例年の研修とほぼ同じ内容で実施する事が出来た。特につくば研究
	学園都市の各研究機関が急な日程変更にも柔軟に対応して頂いたので、非常に
	良かったと思う。本校コースには、この筑波研修に参加出来る点に魅力を感じ
	て志望した生徒も多いので、次年度以降も円滑に実施出来る様に努めたい。
評 価	今年度は各研修の事後アンケートで「大変有意義であった」と回答した
	生徒の割合が比較的高く、研修内容の充実を図るという観点では、一定の
	成果を収める事が出来た。特に理数探究中間講評会において「大変有意義
	であった」と回答した生徒の割合が例年と比べて高かった。この講評会を
	B 通して、新たな学びや気付きを得た生徒が多かった様であり、生徒自らが
	主体的かつ積極的に探究活動に取り組む事の重要性を再確認した。
	また今年度は学級担任や各種研修の引率等で理科や数学以外の教科
	の先生方に関わって頂く機会が増えた点、地元の国公立大学で今年度
	一切元生力に関わって頂く機芸が増えた点、地元の国公立人子で与中度     新設された学部や学科(プログラム)の内容を取り入れた研修を実施
<b>ル左声</b>	する事が出来た点等からも、当初の目標を概ね達成したと総括した。
次年度へ	・現在の自然科学コースの行事は、理工系学部との連携が中心となっているので、
向けての	次年度以降に医療系学部(薬学部)や教育学部等との連携を検討する。
課題	・昨今の多様化する大学入試における進路指導に関する指導事例やノウハウを
(並は非維	共有・継承して、生徒の進路実現のための指導体制を継続的に強化する。

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 3 ―
重点項目	学校生活 (保健指導)
重点課題	情報端末の使用による心身への影響を考え、健康を自己管理する意識を高め、健
	やかな学校生活を送ることができる生徒を育成する。
現	①自分のからだの健康な状態のリズムを自覚し、それを維持するための生活に主体
	的に取り組むことができる生徒
	②体調が悪くなったとき、その原因を考えることができる生徒
	これら①②を達成するための知識理解と意思決定・行動選択ができる生徒が本校
	の目指す生徒像である。
	昨年度の健康生活に関する生徒アンケート(R5.7月、R6.1月の2回実施)による
	と、寝不足の原因として「スマホ・PCの使用」が約60%、「ゲーム」が約15%と
	看過できない結果であった。日頃から学習、部活動、睡眠の各時間の確保に苦心し
	ているはずにも関わらず、情報端末の使用が、心身の健康に悪影響を及ぼしている
	ことは明白である。情報端末使用による自身の健康課題に気づき、健康を自己管理
	する意識の向上が求められる。
達成目標	情報端末の使用が健康に及ぼす影響を理解し、自身の健康課題に気づき、「改善
	に努める」と回答する生徒が70%以上。
方 策	・全校生徒に健康生活に関するアンケートを実施(5月、1月の年2回)し、実態
	を把握するとともに、各自が生活を振り返る。
	・日常のさまざまな教育活動の中で、「保健だより」「相談室だより」などを通して、
	「健康」についての意識の向上を図る。
	・学校保健委員会で、アンケート結果をもとに、学校側、保護者の立場から問題点
	を明確にし、健康な生活の実現のため、意見交換を行う。
達成度	1月の調査結果で、「改善に努める」と回答した生徒は、2年生が90.8%、1年
	生が81.9%であった。(3年生は5月のみ調査。)
具体的な	・日常のさまざまな活動を通して、「健康」についての意識の向上に取り組んだ。
取組状況	5月(全学年)、1月(1,2年)に健康生活に関するアンケートを実施し、各自の
	生活を振り返る機会を設けた。
	・定期的に「保健だより」「相談室だより」を作成、配布し、健康に関する知識や
	理解を深め、自分の健康を自主管理できる生徒の育成に努めた。
	・11月の文化部発表会では5月のアンケート結果と、富山国際大学こども育成学部
	の村上満教授の調査研究内容を連携させた発表を行った。2年生の保健委員中心
	に、アンケートの分析、資料作成をさせ、全校生徒に向けて啓発活動を行った。
	・10月のPTA学校保健委員会でも、文化部発表会と同様の発表を保健委員が行い、
	それをもとに、保護者、学校薬剤師、教員が意見交換を行った。薬剤師からは、健
	康生活のあり方や時間管理の重要性などについて具体的な助言があった。
評 価	達成目標70%は達成したが、「改善に努める」という回答は意識の問題で
	B あり、行動を伴っているかどうかは分からない。自身の端末の使い方に危
	機感を持っていることはうかがえる。
次年度へ	次年度も情報端末と健康面との関わりについて引き続き調査研究を進めたい。心
	身の健康を自己管理する意識を高めさせると共に、具体的な方策を提言し、実行を
	<ul><li>促すような取り組みを考えていきたい。</li><li>A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)</li></ul>

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 4 ―
重点項目	学校生活(生徒指導)
重点課題	生徒の規範意識を高め、自主・自律の向上を図る。
	~「交通安全」「スマートフォンの使い方」に関する生徒の主体的な取り組み~
現状	昨年度までのアンケート結果から年々規範意識は高まっているが、さらに交通ルール
	の遵守やマナーの向上(ヘルメット着用)を促し、事故を減少、怪我の重症化を防ぐ必
	要がある。また、スマートフォンの利用時間が2時間を超える生徒の割合が2割強あり、
	健康面・学習面への影響が懸念される。
達成目標	主体的に課題を解決し、適切に判断し行動できる生徒の育成
	・自転車事故の減少(0を目標に)
	・スマートフォンの利用時間2時間未満・・・80%以上
方 策	・生徒会(執行部・自律委員会)活動を支援しながら、生徒一人ひとりが主体的に自覚
	と責任をもった行動が実践できるよう指導を行う。
	・さわやか運動、校門指導、交通安全指導などを通して、規範意識やマナーの向上、交
	通事故削減を図る。また、各学年・各部活動とも協力しながら、さまざまな教育活動
	を通して支援・指導を行う。
達成度	主体的に課題を解決し、適切に判断し行動できる生徒の育成
	・自転車事故 6件発生 (13件(R5)←7件(R4)←8件(R3)←8件 (R2))
	・スマートフォンの利用時間2時間未満75.7% 1時間未満44.4%
具体的な	○交通安全・通学時のマナーについて
取組状況	・日本自動車連盟 富山支部講師による交通安全教室
	・生徒指導部による街頭指導(月2回程度:東富山駅~学校間)
	・新ヒヤリマップの周知徹底・実践
	・終業式・学年会等の集会において交通安全・通学時マナーの呼びかけ
	○生徒自律委員会の取組みについて
	・交通安全指導(さわやか運動、通学路安全確保のゴミ拾い含む)
	・駐輪指導(今年度はカギかけ防犯コンテストへも参加)
	・スマートフォンの利用について:自律委員会が中心となり、統一HRのまと
	めを校内に掲示し、生徒の相互共有を図り、マナーの向上にも努める。
評 価	自転車事故(軽傷で済んでいるが)の発生場所と原因
	C ・交差点や脇道から出たところでの接触事故件数が、6件中5件
	(確認不足)
	・自損事故も1件発生 (注意緩慢)
	スマートフォンの利用について
	・本年度は目標に僅かに及ばなかった。。
次年度へ	・基本的生活習慣の確立を促し、あらゆる教育活動の場を通して、主体的に社会的
向けての	マナーや人間性を向上させる態度を養う。(本年度の重点課題は継続する。)
課 題	・生徒自律委員会のさらなる活性化を支援し、自主・自律の向上を図らせる。
(37 fm ++ 3#	・「いじめ防止」や「防災教育」、「主権者教育」も継続する。   A・達成した B・ほぼ達成した C・現状維持 D・現状より悪くなった)

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 5 ―
重点項目	進路支援
重点課題	進路目標を達成するため、日々の学習時間を十分に確保させる。また、進路意識
	を高めさせ、目標実現に必要な努力を続ける姿勢を育てる。
現	・自己の適性、能力に対する認識が曖昧であり、適切な進路選択を主体的に行うこ
	とができない生徒がいる。
	・時間管理が不十分で学習習慣が確立されていないため、目標実現に必要な家庭学
	習時間が確保されておらず、学力が不足がちである。
達成目標	週間学習時間の学年目標達成率。1週間の合計学習時間の学年目標は1・2学年
	は20時間、3年生は30時間である。
	1、2年生・・・60%以上 3年生・・・80%以上
方 策	・1、2年生は4・7・9・11・1月に、3年生は4・7・9・11月にそれぞれ学習時間
	調査を行い、担任、授業担当、部活動顧問等による面談や学年集会、ホームルー
	ム活動等を通して、時間管理能力を養わせ、家庭学習の充実を図る。
	・学習実態調査後に、調査結果を個票で生徒個人に知らせて、家庭学習量と学習計
	画を見直させ、学習習慣を改善させる。
	・社会的・職業的自立に向けたキャリア教育・職業教育を推進し、生き方や在り方
	を考えさせる中で、学びの必要性を説き、学習意欲を喚起させる。大学訪問やオ
	ープンキャンパスを通して、目標とする大学について考えさせる。
達成度	・週間学習時間の学年目標達成率。(1・2年は1月時、3年は11月時の学習時間調査
	結果より算出)
	1年生 31% 2年生 47% 3年生 65%
具体的な	・学習時間調査は生徒個人のタブレットによる入力で実施している。調査結果の個票配付について
取組状況	は、現在、システム開発中である。
	・2年生は、例年通り、全員で富山大学を訪問し、施設見学や学部・学科の模擬講義、本校卒業生
	による富大生座談会に体験・参加し、学部学科の特色、地元大学の充実と地域への貢献などを体
	得した。1学年は、進路座談会を予定通り開催できた。概ね良好な状況であった。
	・キャリア教育・職業教育推進のため、生徒の研修機会(看護見学、薬剤師体験、県アカデミックイ
	ンターンシップなど)は、必要に応じて教室掲示だけでなくGoogleClassroomで公開し、積極的な
	参加を呼びかけた。
評 価	・3 <u>年生</u> は、 <u>週間学習時間が30時間以上</u> の者は7月:52%→11月: <u>65%</u> 、平均は29.9h
	→33.1hだった。受験生として学習意識は高く、7月時で平均値が学年目標に達した。
	C ・2 <u>年生</u> は、 <u>週間学習時間が20時間以上</u> の生徒割合は7月:28%→1月: <u>47%</u> に大幅
	アップし、平均も16.0h→19.3hに伸びた。
	・1 <u>年生</u> は、 <u>週間学習時間が20時間以上</u> の生徒割合は7月:24%→1月: <u>31%、</u> 平均は
	15.4h→16.5hで双方とも増加した。
	・目標週間学習時間を達成することが出来た生徒の割合は、各学年とも目標に達して
	いない。しかし、結果として目標達成している生徒数は増加傾向であり、Cとする。
次年度へ	必ずしも「学習時間が長い=学力が高い」ではないが、学習時間の確保は学力向上に不可欠
向けての	であり、1週間単位で目標学習時間に達するきちんとした生活計画とその実行、さらに習慣化を
課題	定着させていきたい。その中で学習の質についても向上させるような工夫を見出していきたい。

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 6 ―
重点項目	特別活動
重点課題	部活動・学校行事・生徒会活動などを、生徒の自立性・内発性を引き出す機会と捉
	え、実践力のある生徒の育成や人間力の向上を図る。
現状	・限られた環境(活動場所・活動時間)の中で、生徒は学習と部活動との両立を目
	指しながら励んでいる。
	・伝統的な本校の学校行事や生徒会主催の行事が、生徒の自主的実践力を高めてい
	る。
達成目標	「体育大会」や「球技大会」、「部活動」において生徒が自主的に参加した
	割合…70%以上
方 策	・日頃の学習活動の成果を生かしつつ、豊かな人間関係の育成に努めさせ、体育的
	な活動、文化的な活動を創造し発信させる。
	・学校行事や部活動、生徒会主催の行事を生徒が中心となって企画運営することに
	より、自主的実践力やリーダー性を養う。
達成度	・「体育大会」において自主的、積極的に参加した生徒の割合
	(1年生94,6%、2年生94%、3年生94.2%)
	・「球技大会」において自主的、積極的に参加した生徒の割合
	(1年生97.3%、2年生94.2%、3年97.7%)
	・「部活動」において自主的、積極的に参加した生徒の割合
	(1年生78.1%、2年生79,5%、3年生87.8%)
具体的な	「体育大会」は、閉会式後に、生徒会執行部主催で「ダンス」を取り入れた。後
取組状況	夜祭のような雰囲気で、企画から運営まで全て執行部で実施した。運営上、効率的
	でない点はあったが、一般生徒は積極的に参加し、楽しんでいた。
	「球技大会」では、生徒会執行部が各学年の実行委員となり、生徒会担当教員の
	指導の下、電子データを利用し、早めに準備に取りかかった。生徒・教員とも、効
	率的に準備、本番を実施し、負担感なく開催できた。
	「部活動」では、各部、リーダーを中心に、短い練習時間の中、効率よく練習に
	取り組でいる。顧問の支援方法が変わり、より自主性、積極性が出てきた種目があり、発生は集のは異がでている。
並 年	り、競技成績の成果がでている。
評価	本年度は「体育大会」で90%以上、「球技大会」で90%以上、「部活動」
	A で80%以上の生徒が自主的、積極的に参加できたというアンケート結果となった。
次年度へ	すった。   今後、学校行事、部活動において、生徒会執行部や部活動のリーダーを中心に、
が 申けての	生徒が自主的、積極的にできるよう教職員が支援し、生徒が達成感、満足感を得る
課題	ことができるようにしたい。特活部として、中心になる生徒に、より具体的に、様々
床 炮	
	な提案ができるよう準備をしていきたい。

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン - 7 -
重点項目	特別活動
重点課題	図書館利用の向上を図るとともに、読書習慣を身につける。
現状	生徒は主体的な読書活動に乏しく、図書室での貸出冊数も少ないのが現状である。
	課題解決、進路探究、小論文など必要とする場面で、図書館内の文献や資料を探し
	たり、活用する仕方や習慣があまり身についておらず、図書館を積極的に活用でき
	ていない。
達成目標	生徒1人あたりの年間読書冊数・・・平均5.0冊以上
方 策	・図書委員による本の紹介、図書館だよりの発行、読書感想文の募集、読書会、
	その他図書委員会活動を通して、校内の読書活動を推進する。昨年度からの課題
	である生徒が読みたい本をそろえることにより、図書館利用を促進させる。
	・図書館オリエンテーションを通じて、主体的に図書館を利用するように指導する。
	また、2学年においては、図書館での小論文の資料の探し方を実践する。
	・自然科学コースの課題研究、各教科の課題、生徒の進路に役立つ書籍や資料につ
	いて図書選定委員会・学年・コース・教科と連携して、それらの配置の充実に努
	める。
	・クラス読書会では、いろいろな分野の本を取り上げて生徒の興味と関心を引き出
	し、読書の深化と領域拡大を図る。
	・図書館を授業においても一層活用するために、Wi-Fi環境を整えた。今後、タブ
	レット等を用いて、効果的な図書館の利用の推進を図る。
達成度	生徒1人あたりの年間読書数
	平均3.6冊 対象:1・2年 1年 4.2冊 2年 3.0冊
	昨年度 平均5.0冊 1年 5.1冊 2年 4.9冊
具体的な	・今年もほぼ例年通りの読書推進活動を行った。文化部発表会では、図書委員が先
取組状況	生方の推薦する本の紹介するパネルなどを作成して展示をした。生徒の興味と関
	心を喚起して、読書 活動の活発化を目指した。
	・図書委員対象の読書会、1・2年生対象のクラス読書会も、事前指導も含め、計画
	通りに実施し、例年以上に活発な読書会となった。クラス読書会の本の選定にお
	いて様々なジャンルの本を選び、生徒たちの興味を引くことができた。
	・1学年を対象に4月に図書館オリエンテーションを開き、図書館に気軽に触れ合う
	ことができるように図った。2学年対象の図書館オリエンテーションは、今年度
	は探究の実際の活動時間確保のため実施しなかった。
	・各教科、自然科学コース、進路研究(小論文対策を含む)に関する書籍、生徒か
	らの要望、生徒の興味・関心の高い本を随時購入して、図書環境の整備に努めて
 評 価	いる。
評価	<b>                                   </b>
	者は両学年合わせて13人であった。(40冊以上1人、20冊5人) 個人読書量
次年度へ	本年度も蔵書は増加したが、今後、更に生徒たちが今読みたい本をそろえること
が 向けての	ができれば、図書館利用も読書量も増加するだろう。また、図書館を小論文学習や、
課 題	探究活動にに利用する生徒も多いので、そうした活動に資する書籍も充実させたい。
	Wi-Fiルータの整備など、図書館をデジタル・アナログ両面で充実させたい。
(部位甘油	WITETINTOの登開なる、図音館をアングル・アテログ画面で光美させたい。 A・達成した B・ほぼ達成した C・現状維持 D・現状より悪くかった)

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 8 ―
重点項目	その他(ICTの利用促進)
重点課題	授業のICT化推進(Google for Educationの授業活用)
現状	生徒はタブレットを活用する仕方や習慣が徐々についてきた。しかし、主体的な
	ではなく、リテラシーを向上させなければならない。クラスルームを利用する授業
	が確実に増加してきている。しかし、授業での教師側の利用が限定的である。また、
	Formsを利用した集計作業の実施は、生徒からの回答率の少なさから、普及してい
	ない。
達成目標	授業や家庭での生徒の一人一台タブレットの利用時間
	・・・一人一週間あたり2時間以上
方 策	・教師の方策
	授業デザイン:主体的・対話的で深い学びをICTで実現する授業の工夫
	互見授業:教務と協力し推進
	ICT利用:課題の提示・回収・採点 授業解説動画などの公開
	・生徒へのアクション
	クラスルームの活用を提示
	Formsなどのアプリケーションの利用推進
達成度	授業や家庭での生徒の一人一台タブレットの利用時間 2時間程度
	評価するに当たり、時間的には1日20分程度で増加していたが、内容的には授業
	での活用が多く、自主的な活用はあまり見られない。今年度の評価は困難である。
	来年度も今一度、内容を考慮した、新たな評価基準を示したい。
具体的な	・教師の方策
取組状況	授業や学習活動でICT機器を有効に活用する工夫が多くの教員によってなされて
	いるが、教科による偏りも見られる。また、視聴覚室のパソコンの入れ替えによっ
	て、ICT機器が活用される機会は確実に増加している。それは図書メディア部の講
	習会やICT支援員の有効活用などの取り組みの成果と評価できる。グーグルワーク
	スペースやデジタル教科書の活用に関しては3年以上経過しているので今後、今ま
	での効果を話し合って反省なども加えて、様々な知見を共有して今後に生かしてい
	きたい。
	・生徒へのアクション
	グーグル・クラスルーム、フォームなどのアプリケーションは、探究活動におい
	て大いに利用され、今年度、利用が増加した。特に生徒のデータ収集を目的とした
	調査はその後の発表に役立っていた。
評 価	授業や家庭での生徒の一人一台タブレットの利用時間一人一週間あたり
	B 平均2時間以上という当初の目標は、使用内容を考慮していないので、あ
	まり意味のないように思われる。一日あたり30分程度は使用しているもの
	の、趣味・娯楽として、使用している生徒の利用時間が長く、学習での利
	用なのかを区別して評価することが必要である。ただ、課題の配布などで
	クラスルームの活用は浸透しており、総合的な探究の時間での活用や、英
	語の学習での使用など新たな活用も着実に増えており、一定程度、評価出
	来ると考える。
次年度へ	・取り組み状況であるように、今年度は総合的探究の時間での活用に進展が大きく、
向けての	グーグルフォームによる調査が特に有効であった。デジタル教科書や、視聴覚室の
課題	デスクトップパソコンの有効活用も今後の課題である。

	令和6年度 富山東高等学校アクションプラン ― 9 ―
重点項目	その他(PTA活動)
重点課題	保護者との連携及び同窓生との交流の推進を図る。
現状	<ul><li>・各専門委員会を年に2回実施しているが、保護者のPTAクラス役員の参加が少</li></ul>
	ないように感じる。
	・同窓会総会への参加者が年々減少しており、活動が低迷ぎみである。
	同窓会会報の代わりにSNSの活用について検討中である。
達成目標	「PTA行事」での参加者の満足度・・・85%以上
方 策	・PTA活動に関心を高くするために、PTA行事を充実させ、PTA各会合や研
	修について参加したいと感じる魅力あるものにする。
	・PTA行事実施後は参加保護者に対してアンケートを実施し、今後の取り組みに
	活かしていく。
	・同窓生に対して、本校の活動などを知ってもらうための新しい形の情報宣伝活動
	を考えなくてはならない。
達成度	・PTA大学訪問参加者36名(27名)
	(結果:「大変満足」17名、「ほぼ満足」19名→100%)
	・PTA全体研修会参加者135名(126名)
	(結果:「大変満足」50名、「ほぼ満足」78名、「やや不満」2名、
	「不満」0名、未提出5 名→94.8%)
具体的な	本年度は、進路に関する保護者同士の懇談会以外はPTA行事を計画通りに実施
取組状況	した。いずれの行事も参加者はやや増加し、無事終了した。【 】内は昨年度
	「PTA総会(5月)」は、190名【175名】の参加。
	「第1回専門委員会(6月)」は、41名【41名】/54名の参加。
	「PTA大学訪問(6月)」は、36名【27名】の参加。
	「進路に関する保護者同士の懇談会(8月)」は中止。
	「第2回専門委員会(10月)」は、31名【43名】/54名の参加。
	「PTA全体研修会(10月)」は、本校カウンセラーの「中塩真巳先生」の「成
	長を支えるために大人ができること」という題目で、約1時間講演を行った。
	135名【126名】の保護者(1年79名、2年48名、3年8名)の参加があった。
	PTA会誌「東蘺」は予定通り2回(7月、12月)発行した。いずれの号にも、2
	人の保護者のエッセイを載せ、親の気持ち伝えることができた。
評 価	「大変満足」、「ほぼ満足」を合わせると、97.4%であった。PTA全体
	A 研修会では、「自分は子供に対して、安心できる大人・親なのか考えさせ
	られた。安心できる場所を与えられる親に今からでも近づけたらと思う」
	「大人としての自分の関わり方を見直す機会となった」「職場の上司にも
	聞いてもらいたい内容であった」等の感想が寄せられた。
次年度へ	PTA活動への参加機会ははぼ実施でき、参加人数はやや増加した。次年度は、
向けての	更に多くの保護者が参加できるように計画準備できればよい。
課 題	同窓会総会の参加者が増加した。(直近の卒業生100人以上参加)
(評価基準	A · 達成した B · ほぼ達成した C · 現状維持 D · 現状より悪くたった)